



米之宮浅間神社

社報

令和5年
夏号
7月1日発行



行事のご案内

◎ 夏越の大祓式

斎行日・六月三十日(金)

十四時より

※当日都合のつかない方は人形
(ひとがた)祓いをお受け下さい

◎ 茅の輪くぐり

六月三十日より七月五日迄

◎ 旧・七夕まつり

七月十五日より八月十五日迄

※短冊に願い事をご記入下さい

お祓い

本格的な夏の到来です。夏といえば、夏祭りを思
い浮かべる方も多いでしょう。現代にあっても、連
綿と生き続けるお祭り。そこには、先人たちの祈り
が込められています。古来、稻作に支えられてきた
日本では、春には豊作を、夏には台風など風雨の害
が少ないことを祈り、秋には収穫に感謝するなど、
季節ごとにお祭りが行なわれてきました。

そして、お祭りに欠かせないのがお祓いです。神
社では、神事の前に必ずお祓いが行なわれます。神
事に関する人やお供え物などを丁重にお祓いしま
す。神社で御祈祷を受けることを、一般にはお祓い
を受けるといいます。神社といえばお祓いというイ
メージが定着しているからでしょう。

お祓いの根底には、清浄を尊ぶ神社の伝統があり
ます。川や海で心身を清める禊^{みそぎ}や、参拝の前に手や
口を清める手水も、こうした伝統によるものです。
また、六月と十二月には大祓^{おおはらえ}という神事が行なわれ
ます。これも、知らない間に犯した罪や過ち、心身
の穢れ、災いを祓い清めるための神事です。
コロナ禍の中、神社では大祓を行ない、また日々
感染の収束を祈つてきました。今年は、コロナ禍も
落ち着き、夏祭りも元通りに行なわれるところが多
いようです。皆様には、是非神様の御加護を戴き、
健やかに過ごされますようご祈念申し上げます。

玉串

神社に昇殿して参拝するときなど、一般的に玉串を捧げて拝礼します。玉串とは、榊などの小枝に紙垂しでを付けたもので、祈りをこめて神前にお供えします。榊は古来、神聖な木とされ、天の岩屋へお隠れになつた天照大御神の出御を仰ぐため、八百万の神々が真榊に玉や鏡をかけてお祭りを行なつた神話が『古事記』に見えます。また、紙垂は半紙や奉書紙を裁断して折つたもので、清浄であることを示すために榊やしめ縄などに付けます。



表書き

神前にお金やお酒などをお供えする際に記す表書きは、「御神前」「御供」「玉串料」「御榊料」「初穂料」などが一般的です。御神前・御供という表書きは説明するまでもありませんが、玉串料・御榊料とは玉串や榊の代わりに、また初穂料とはその年に初めて収穫されたお米の代わりに、それぞれお供えする料であることを意味しています。このほか、「上」や「奉獻」「奉納」と書く場合もあります。上はよく神様や日上の方に対する御礼の際の表書きに用いられる語です。



神社の豆知識



参拝の作法

私たちが人におじぎをするときは、普通は一度だけですが、神前では二拝一拍手一拝の作法が用いられます。この作法は、我が国の伝統的な作法である両段再拝に基づくものです。両段再拝とは、再拝（二拝）を二回行なうことを行ないます。神職の作法は主に、再拝、祝詞奏上の後、さらに再拝、二拍手、一拝となっています。拍手は、我が国独自の拝礼作法として神さまや貴人に対しても用いられました。平安時代に宮中では拍手を行なわず再拝だけとなりましたが、神前ではその後も拍手が用いられてきました。明治時代、再拝拍手という形が制定され、これを基本に二拝一拍手一拝が慣例化しました。ただし、伊勢の神宮の神職が行なう八度拝や出雲大社の四拍手など、古例に基づき異なる作法を行なっているところもあります。



神社では、家内安全・身体健全・商売繁盛・初宮参り・七五三詣・学業成就・合格祈願・交通安全・旅行安全・縁結祈願・子授祈願・安産祈願・厄祓い・病気平癒・心願成就・地鎮祭・竣工祭・自動車清祓など様々なご祈願を受付けています。いつもより神さまに近い場所で、願意を届けてみてはいかがでしょうか。

ご祈願についてのお問合せは神社まで

連絡先 米之宮浅間神社 社務所

十四一六一〇九〇六 静岡県富士市本市場五八二

五〇四五五(大二)〇八二九



神社や神道について詳しくは
こちらのQRからご覧ください。



神社からのお願い



新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが変更になりましたが、引き続き神社では感染予防に対し様々な取り組みを行なっています。是非清々しい気持ちで神社にお参りして戴く為に、皆様におかれましても感染症対策に十分に気を付けて戴くようお願い申し上げます。

